

まなびあい

〈学校の教育目標〉

ルールをまもる子
チームワークをつくる子
ベストをつくす子

在籍児童数 561名

いのちの授業



先月9日、東京女子医科大学病院の小児外科医の先生が6年生を対象に「いのちの授業」をしてくださいました。

医師からは、様々な病気と闘っている子供たちの話を通して、「いのち」について考える貴重なお時間をいただきました。

お話をうかがった後、6年生の子供たちが医師へのお礼の手紙を書きました。2人の手紙の一部を紹介します。

— 私が、一番印象に残っている言葉は、「だれかのために自分がいて、自分のためにだれかがいる」です。いじめられている人が自分を「役立たず」、「死にたい」と悩んで苦しんでいる人をテレビで見ます。でもその人たちは「今」その場に自分のことを大切に思っている人がいないだけで、どこかに大切にしてくれる人がいる、と先生のお話を聞いて分かりました。他にも「当たり前は、当たり前ではない」も心に残りました。これからは自分の当たり前を「奇跡」と思い、この思いを心がけて生活していきたいです。（6年 Sさん）

— 私は、命の授業で自分の命を大切にする。人の命を大切にするということが分かりました。今まで命を大切にしてきたけれどより大切にします。「体は産まれるけれど心は産まれない」この言葉に感動しました。心があって今、健康で生きられているのは家族、友だち、先生が自分の心をつくってくれたのでそう簡単に「死ぬ」とか言わないように続けます。それから友達にも「死ぬ」「殺す」を言いません。（6年 Mさん）

全ての児童の手紙を読みましたが、医師からの話を

その子なりに真剣に受け止め、命を大切にしていこう、今、生きていることに感謝してがんばっていこうなど学んだこと、感じたことを素直に、そして前向きに書いていました。

今月、本校では、三芳町教育委員会並びに保健師、精神保健福祉士の方々をお招きし、「児童生徒の生命と心を守るための教職員研修」を行います。子供たちの尊い命を守るために学校ができることを学びます。また、これまでも道徳の時間に生命尊重を学習していますが、今後も学級活動の時間にもいのちの大切さについての学習を計画しています。

本日、12月1日は「いのちの日」です。平成13年に厚生労働省が自殺予防活動の一環として制定しました。また、12月9日は「障害者の日」、そして翌10日は人権デーとされています。一人一人が価値ある人間として尊重されていく社会でなければなりません。そのために、学校が家庭・地域と一体となり、どの子も自他ともに命を大切にする人となるよう支援してまいります。今月もご理解ご支援をよろしく願います。（校長 河野公子）

■さらに気を引き締めて

11月も新型コロナウイルス感染予防対策にご協力いただきありがとうございました。最近、連日のように新型コロナウイルス感染者数が過去最多という報道がされています。学校でも改めて、マスクの着用、手洗い・うがい、3密回避の徹底について指導しています。ご家庭におかれましても引き続き感染予防対策をお願いいたします。

また、だいぶ寒くなってまいりました。今月からエアコンも利用していきますが、換気もしていかなければなりません。早寝・早起き、朝ごはん、十分な睡眠等の健康管理とともに服装等につきましてもご配慮いただき、元気に冬休みを迎えられますよう重ねてお願いいたします。

